

# Mランドニュース Vol. 52

## 丹波ささ山校 平成23年7月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県篠山市池上569

TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 豊田文雄

<http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

### 《今月の言葉》

人間は「もの」でも「機械」でもなく「生きもの」である。心のエネルギーを出し惜しみ、節約しようとするよりも、上手に使う方がかえってエネルギーの量も増加させる。

河合隼雄先生(こころの処方箋より)

顔晴れ東北  
顔晴らう日本

東日本大震災の被災地支援のため、教習車両(中型トラック)二台を宮城県の石巻中部自動車学校に寄贈することを決め、六月八日、移送に伴なう出発式を行ないました。



新天地での活躍を祈って見送る社員

前日までに車両に対する感謝の気持ちと新天地での活躍を祈念し、これまで担当してきたインストラクターの手できれいに磨きあげました。二台とも五月末まで実際に教習に使用されおり、寄贈先の自動車学校の早期業務再開にきっと役立つことと思います。

この教習車で免許を取得したドライバーが復旧、復興活動に貢献していただければうえない喜びです。

(管理者 永井興喜)

東日本大震災に際し、世界で一番の義援金を送つていただいたのが台湾で官民合わせてその額百八十億円といいます。九州くらいの国土に人口二千三百万、サラリーマンの平均年収は約百五十万円、台湾の人々がここまで心を尽して日本のことを思ってくれるその背景を、私たちは知らないければなりません。一つには先の台湾大地震、また台風被害への支援をいち早く行なった日本への恩返しとも言われますが、親友と呼ぶにはそれだけではありません。

去る五月八日、或る日本人の命日に馬英九台湾総統はじめ関係者、そして地元の人など約二百名が参列しました。台湾の方々の心に残り崇められるその日本人の名は、八田興一(一九四五年没)。

百年近くも前に当時としては東洋一のダムを台湾につくり、水利事業を指導した技師で、百万人もの農家の人々の暮らしを守り豊かにした恩人として教科書に扱われ、今なお尊敬の念をもちて語り継がれています。

九州くらいいの国土に人口二千三百万、サラリーマンの平均年収は約百五十万円、台湾の人々がここまで心を尽して日本のことを思ってくれるその背景を、私たちは知らないければなりません。一つには先の台湾大地震、また台風被害への支援をいち早く行なった日本への恩返しとも言われますが、親友と呼ぶにはそれだけではありません。

去る五月八日、或る日本人の命日に馬英九台湾総統はじめ関係者、そして地元の人など約二百名が参列しました。台湾の方々の心に残り崇められるその日本人の名は、八田興一(一九四五年没)。

島根県戸河内町からMランド益田校(島根県)まで、標高差約八〇〇mの過酷な道程一〇〇kmを歩くチャレンジウォークが行なわれました。参加者百二十名の中に篠山から中野INS、岸INS、太田INS、岸本雄也さん(卒業生)、山下達矢さん(卒業生)、山下達矢さんの五名が果敢に挑戦しました。

島根県戸河内町からMランド益田校(島根県)まで、標高差約八〇〇mの過酷な道程一〇〇kmを歩くチャレンジウォークが行なわれました。参加者百二十名の中に篠山から中野INS、岸INS、太田INS、岸本雄也さん(卒業生)、山下達矢さん(卒業生)、山下達矢さんの五名が果敢に挑戦しました。

過去における外交官杉原千畝やトルコ船遭難事故での和歌山県串本町の人々と同様に、人の持つ良知が国境を超えて、時を超えて明らかとなっています。世界の人々が認める「道・和・美」を大事に思う日本人の心に私たち自身が気づき、そこに立ち帰らなければなりません。

※顔晴れ!!「がんばれ」と読みます。元の「頑張れ」の文字は、かたくな、意地、我を張るとなるため、顔が晴れやかになれるようになると励ます気持ちをこの文字に当てています。

益田校への訪問となりましたが、職員の方とゲストの方が一つの目標に対して本気で取り組む姿を観て、圧倒され感動しました。プログラムや予定についての細部まで行き届いた企画であること

100km  
チャレンジウォーク



共に歩んだ仲間と共に感動のゴール

や、個人個人の役割や配置についても統一され、かつ正確なものであることが現場に確なものです。現場にいて私にも手に取るようになります。企画をされた事務局の方はもちろん、スタッフの方々や応援していただいた方全員のおかげで私たちは無事一〇〇kmに挑み、そして成功に結びつくことができました。丹波ささ山校に私が伝えることは、どんなに大変な目標や難題があろうとも、必ず全員で取り組めば達成できるということと、一人ひとりが本気になることです。

岸恒三郎 今回の参加で私は大きな希望と自信を持つことができました。とても貴重な経験で、私の成長の大きな財産になりました。

寄り添っていました。

体育教師を目指して宮城県の仙台大学体育学部に入学しました。仙台市内から四〇kmほど離れた緑豊かな柴田町にある大学です。そこで出会ったボブスレー競技の元オリンピック選手が私のトライアスロンチャレンジに大きく関わったのです。

その元オリンピック選手は、二十七歳の大学一年生です。体は大きく筋肉質で見た目は怖いのですが、誰にでも笑顔で接して、真っ先に「おはようございます」と大きな声で挨拶をされるので学生たちは好感と憧れを抱きました。

私もそんなひとりでしたから同じ研究室に所属しました。世界のひのき舞台で戦われた経験談を聞くとワクワクしてきます。「レースは楽しいよ！自分との戦いだ！どこまでやれるかチャレンジだ！」「ライバルは自分だ！」と本気で熱く語ってくれます。その話を聞くと元気になれるのでいつも

は、マラソンもやりたいですがトライアスロンにチャレンジしたいです。と伝えました。

こうしたことから私の目標がトライアスロン世界選手権大会になったのは、ごく自然な流れでした。

「おお～いいね～、やれやれ、どことんやれ～」「やれるまで諦めるな！」「それで泳げるなんか？」「泳げません！」「それじゃ、泳げろか」となりました。

「目標達成について教えてやるようにならなあかんな」「どう彰一！トライアスローネー！」とになりました。

「目標達成について教えてやるようにならなあかんな」「泳げるなんか？」「お前ならでろか」となりました。

「どう彰一！トライアスローネー・アテネなどオリンピック男子チームのコーチを歴任し、日本のトライアスロン界をリードする。

トライアスロンにチャレンジするために先ず、やるべきことは、フルマラソンのサブスリー（三時間切ること）達成でした。意気込みだけで記録を狙つて失敗した経験があつたのでラスト十二kmを元気に走ることを目標にチャレンジしました。

「できる！できる！絶対できる！」練習中、この言葉がこだましワクワクした気持ちになりました。

「できる！できる！絶対できる！」できる！できるまでやれ！」



まだやつたことのないトライアスロンで日本のトップ選手になれ、お前ならできる！目標は世界選手権に出ることや！できるまでやれ！

小笠原諸島が世界自然遺産に、今度は二時間四十九分で完走できました。サブスリーを達成しトライアスロンへの道がグッと近づいてきました。

※右の写真は、アイアンマン世界選手権大会のスイムスタートの様子

ハワイ島コナの街を午前七時日の出とともにスターし、二二六・二kmの長旅

（文）

会と言つて、毎年十月の満月に一番近い土曜日にハイ島コナで開催される二千人規模の一一番過酷なレースでした。

兵庫県篠山市出身。昭和三十七年（一九六二）生まれ。



やしおいち  
八尾 韶一

## セーフティスクール

六月二十六日（日）、「二輪セーフティスクール」を開催しました。心配した台風の影響もなく、体験乗車を含め六十名を超えるご参加をいただきました。

今回は『見る・視る・観る』私たちは何をみていますか？ということで、最近の二輪車の事故を考え、物事を視る。住み慣れた地域を、地球を観て、今の自分自身を省みよう！と、『目線』をテーマにしました。

具体的には、よく見えるところ。反対に見えないところ。また、速度によって見えにくいところなど状況によって観る方法を変えなければならないことの学びです。

篠山の風土の中で、命の尊さとライダーとしての視野の広さ、周りの交通を意識して初心にかえってカッコよくバイクにまたがつていただきたい。そして何よりもライダー同士が楽しく触れ合つていただきことを目的にした今回の取り組みでした。



指導員の説明をしっかりと聴く原付での参加者